

調査研究等事業報告書 (個人用)

一関市議会議員 千葉 大作 様



報告年月日	平成27年12月18日
実施日(期間)	平成27年11月21日~平成27年11月21日
実施場所 (行先等)	東京都文京区 東京大学弥生講堂
事業区分 (いずれかに○)	研 修 (調査研究) 要望・陳情活動 会 議
事業内容	シロポドウム ネオニコチノイド系農薬の生態系影響
報告者	一関市議会議員 那須 茂一郎
報告要旨	1. 目的.....別紙(1) 2. 概要.....別紙(2) 3. 参考とすべき事項、所感.....別紙(3)
主要 資料名	表題1部写し

別紙(1)

1. 目的

生態系影響があると言われている、ネオニコチノイド系の農薬に対する、学習と情報を得るため。

2. 概要

公益財団法人 日本自然保護協会が主催するシンポジウムでした。ネオニコチノイド系の農薬を多方面から論じるシンポジウムでした。(コピー参照)

この人たちの発言の中にもはっきりと、生態系に影響があると、いいかねる方たちもいました。それだけ、この農薬の危険性を帯びていると思われました。

3. 参考とすべき事項・所感

この農薬の危険性が、やっとな多くの人が気が付き初めたということではないでしょうか。5年前、岩手日報の紙上で、盛岡の養蜂家、藤原誠太氏がミツバチの幼虫に作用することが、人間の子供・胎児たちにも作用しているのではないかと、アメリカのハーバード大学の研究を元に話されていたことが、いま全国的に認められつつあるようです。もちろんEU諸国での禁止、使用中止の措置も大きな影響を与えたようです。

会場からの発言の中に、日本女子医大の医師 平 久美子先生の発言が注目されました。それは10年ほど前から、原因不明の頭痛やめまい、倦怠感等の患者が来て、原因がつかめなかった。ところがその患者の尿からネオニコチノイドが検出され、その濃度が低くなると、患者の症状も軽くなる、そういう患者が、3000人にもなるという報告がされました。はっきりと原因が特定こそされませんが、この種の農薬に大きな疑いがされていました。昆虫だけでなく、人にも影響が出始めたと思いました。

また、同会場から 有機農業の指導者、稲葉先生も発言され、安全な農業・農産物を生産して採算の取れる農業してこそ、農業の後継者が残り、農業が発展するとの発言が有り、注目されました。

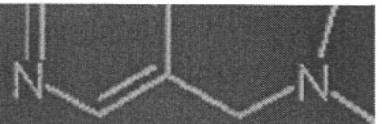
この一閃でも、早くこの農薬を使わなくとも良い農業、農法を確立して欲しいと思いました。

昆虫や次世代の子供たちにも影響があると言われているので、これらの浸透性農薬を使わない指導をすべきだと思いました。

以上

シンポジウム

ネオニコチノイド系 農薬の生態系影響



主催:公益財団法人 日本自然保護協会

協力:国際自然保護連合日本委員会

後援:日本生態学会、日本野鳥の会、WWFジャパン、ラムサール・ネットワーク日本

プログラム



■あいさつ 趣旨説明

「ネオニコチノイドとは」

高川 晋一(日本自然保護協会)

■基調講演

ネオニコチノイド系殺虫剤の生態系影響と『世界的な総合評価書 (WIA)』の公表

マーテン=ヴァンレクスモンド

(国際自然保護連合 (IUCN) 浸透性殺虫剤タスクフォース)

■事例報告 14:30~

「生態系サービスと農業、そしてネオニコチノイド」

マイケル=ノートン(欧州アカデミー科学諮問委員会/東京工業大学)

「長期フィールド調査から明らかとなったアキアカネの激減」

二橋 亮(産業総合研究所)

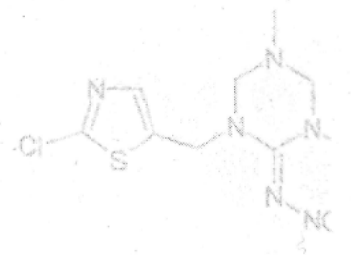
==== 休憩 15:10分ごろ ====

「ネオニコチノイド系農薬の生態リスク評価及び実態調査」

五箇 公一(国立環境研究所)

「農薬問題の解決に必要な視点」

本山 直樹(千葉大学名誉教授)



■パネルディスカッション 16:20~

■閉会 17:30

調査研究等事業報告書 (個人用)

一関市議会議長 千葉大作様

受付
受付 第 号
28.3.14
岩手県 一関市

報告年月日	平成28年3月14日
実施日(期間)	平成28年2月14日~平成28年2月15日
実施場所 (行先等)	福岡県久留米市 L.E.システム株式会社 大木町
事業区分 (いずれかに○)	研修 <u>調査研究</u> 要望・陳情活動 会議
事業内容	焼却に与るゴミの処理について
報告者	一関市議会議員 那須茂一郎
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)
主要 資料名	

1. 目的

ゴミを焼却しないで処理をしている町があり、それをコンサルタントした会社を通じて、その状況を視察する。

2. 概要

福岡県大木町では、ゴミを分別して焼却しない方法をとっている。生ゴミはメタン発酵して発電を行い、消化液は田の肥料としている。

また、メタン発酵施設の隣で食堂を経営している。

3. 参考とすべき事項、所感

今、一関で焼却炉の設置場所で、もめているが燃やさないで処理できたなら、このうえ好都合ではないか、それを実践している自治体があり、それを活用して大きく町を発展させていた。燃やさない利点は大きい。ただ二酸化炭素の排出が減るだけではない。

住民負担の金額も、焼却炉を造るより大幅に削減されるという。確かに市民の分別への負担があるが、混ぜるならゴミ、分ければ資源という言葉通りではないか。現在一関でも、市民の多くは分別している方は多い。市の方ではこのような協力を元に、燃やさないで発展させる方向を取るべきではないか。資源となるべきを燃やしてしまう、このもったいなさを気が付くべきではないか。

改めて、一関の政策と対峙させられた。

行 程 表

2月14日

自宅 → 一関駅 → 仙台駅 → 仙台空港 →
東北新幹線 飛行機

福岡空港 ホテル宿泊(博多グリーンホテル)

2月15日(月)

ホテル → LEシステム社(久留米市) → 大木町 → LEシステム社
タクシー

久留米駅 → 福岡駅 → 福岡空港 → 仙台空港 → 一関駅 → 自宅着
新幹線 飛行機 東北新幹線